

2019年5月22日

2019年5月定例自然観察会実施報告書

六甲自然案内人の会 2班 池田 均

実施日時 2019年5月12日(日)
参加者 ビジター34名 会員27名 (内2班15名)
*【参考】自主研修会(5月5日) 会員参加者46名 (内2班14名)
テーマ 幻の風呂谷に新緑をもとめて
コース 10:00 神戸電鉄有馬口駅～阪神高速北神戸線高架下～風呂谷第2砂防堰堤～往路を経て15:00 有馬口駅(解散)
説明案内人 1班 荻谷、2班 池田清、3班 倉重、4班 近藤、5班 西

はじめに

「これがゼンマイですか?」。大きくなった孢子葉と栄養葉を、参加の女性が興味深そうに顔を近づけて見ていました。喜色満面と言えは少しはしゃぎ過ぎた受け取り方になりますが、担当班としては嬉しい反応の一コマでした。

風呂谷。地元の人「ふろんだに」と呼んでいました。谷を見下ろすと2段の滝壺がありました。それが名前の由来のようですが確証はありません。

2004年発行の『山と高原地図 六甲・摩耶』には風呂谷と記載されていますが、最近の同社地図にはその名がありません。国土地理院の地形図にも載っていません。今となっては幻になった谷です。国土交通省が砂防堰堤の標識に「ふろのたに」と明記し、その名を残しています。



風呂谷由来の滝つぼ??

1. コースに沿って

(1) 有馬口駅から阪神高速北神戸線高架下まで

田畑に囲まれた狭い道では主に野草の観察です。決して珍しくないツタの前では、吸盤で付着すること、伝って伸びることが名の由来との説明に、皆さんメモを取り始めました。

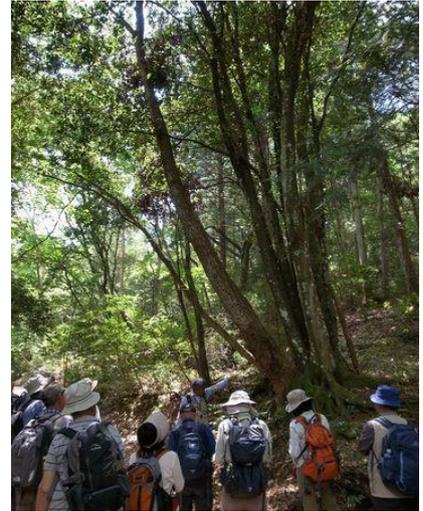
ヤマコウバシの説明に入ると、「落ちない葉ですね」と反応が早い。詳しい参加者もいます。主に観察できた野草では、ウシハコベ、キランソウ、シュンラン、ミミナグサ、ヤマネコノメソウ、ムラサキケマンなどがありました。

車止めチェーンから先は専ら樹木がメインになります。アベマキを根元から抱きかかえ、一緒に仲良く天を仰ぐ巨木が目に入ります。オオツクバネガシと思われました。

林の中に入ると、まだ少し花をつけているコバノガマズミやミヤマガマズミが春の名残を伝えていました。高架下あたりでは、目前にアワブキやカスミザクラ、コシアブラを観察することができました。ハウノキは開花前で、まだ硬いつぼみでした。



アベマキと仲良く、オオツクバネガシか？→



観察中、突然ある物体を発見しました。皆さん一斉にスマホを開いて検索。「モリアオガエルではないか」との結論になりましたが…（右写真）

その他、マルバアオダモ、アカシデ、ツクバネウツギ、タカノツメ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、カヤ、イヌガヤなど観察。

また各案内人はシダにも詳しく、イノデをはじめフモトシダ、リョウメンシダなど比較的覚えやすい種類を説明されていました。「クラマゴケといいますが苔ではありません」。皆さんウンウンと頷いていました。



(2) 高架下から風呂谷第2砂防堰まで

このあたりから山道になります。少し分かりにくい所にゴヨウアケビの花を発見。さらに進むと足元一面にキラソウの花畑。次いでミヤマナルコユリやチゴユリが出現。僅かながらアリマウマノズクサも観察できました。

いよいよ山道に入り、エンコウカエデの幼木も見られました。「葉の裂片が細長く、猿の手に似ていますね。それでエンコウ」、と。ウンウンと納得。

このあたりから谷を覗くと真下に小さな滝つぼが見えました。地元の人が言う風呂谷の由来？半信半疑で下山。

ミヤマナルコユリ→



(3) その他

5月から元号が令和になりました。令和が万葉集に由来したことから、万葉集の編纂にかかわった大伴家持について解説がありました。その波乱の生活を紹介したのは清原さん。

また、今回は川原にツェルトを張り、女性用トイレ区画を設けるなどの工夫を試みました。

2. 反省及び感想

コースについて、短いわりには植生が豊かな山域であった、季節を変えて再度実施してみたいとの声がありました。